

金融理解度向上のための年齢層別カリキュラム^(注) (素案)

別表 1

	経済のしくみと消費者行動	貨幣の価値と機能, 金融のしくみ	
幼稚園	(所有できるものは限られていることを知る) <ul style="list-style-type: none"> ものを大切にすることを学ぶ 自分の物と他人の物の区別を学ぶ 欲しいものをすべて手に入れることはできないことを学ぶ 約束を守ることを学ぶ 労働の価値に気付かせる (実践的指導例: 家事を手伝ってみよう促す) 	<ul style="list-style-type: none"> 貨幣の基本的な機能を理解する (実践的指導例: 買物ごっこ) 	
小学生	低学年 (自分と家族を取り巻く経済原理を理解する)	<ul style="list-style-type: none"> ものを大切にすることを学ぶ 欲しいものを全部手に入れることはできないことを学ぶ 約束を守ることの重要性を理解する 目標達成のためには意思決定が必要なことを理解する 労働の価値を学ぶ (実践的指導例: 学校や家庭で身の回りの仕事をするよう促す) 身の回りで行われている生産・消費活動について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 硬貨や紙幣を正しく識別する なぜ貨幣に価値があるのか理解する 貨幣の機能を理解する (実践的指導例: 小額の買物をする機会を作る) 消費税について理解する 外国では別の通貨が使われていることを理解する
	中学年 (地域を取り巻く経済の原理を理解する)	<ul style="list-style-type: none"> 労働の価値を学ぶ (実践的指導例: 学校や家庭で進んで仕事をするよう促す) 両親の労働とお金の関係を理解する 身の回りの生産と消費活動を結ぶ市場のしくみを理解する 身の回りで行われている投資活動について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 暗算でおつりを計算できるようにする 多くの人が欲しがるとは値段が上がることを理解する (実践的指導例: スーパーなどで商品の値段調べをする) 銀行の基本的なしくみを理解する
	高学年 (日本をとりまく経済のあらましを理解する。生活設計の考え方に触れる)	<ul style="list-style-type: none"> 日本の産業構造と流通のしくみを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 金利の機能と計算方法を理解する (実践的指導例: 単利の計算を行ってみる)
中学生	(金融・経済の基本的なしくみや金融サービスの利用について理解する。生活設計の必要性に気づく)	<ul style="list-style-type: none"> 売買と貸借の違いについて理解する 市場競争と比較優位について理解する 公共的な目的での生産・投資活動の存在を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 金利の機能と計算方法を理解する (実践的指導例: 複利の計算を行ってみる) 証券市場の基本的なしくみを理解する 銀行等金融機関の社会的な機能を理解する 中央銀行の機能, 金融政策について理解する 保険の基本的なしくみを理解する
	(金融・経済<税制, 社会保障制度を含む>のしくみや金融サービスの利用方法とリスクについて理解する。生活設計の考え方を学ぶ)	<ul style="list-style-type: none"> 契約と自己責任について理解する 公的年金, 健康保険, 雇用保険, 介護保険の具体的なしくみを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 金融市場の構造と機能を理解する さまざまな金融機関の社会的な機能を理解する 中央銀行の機能, 金融政策について理解する (実践的指導例: 望ましい金融政策について議論する)
高校生	(金融・経済<税制, 社会保障制度を含む>や金融サービスの利用方法・リスクの具体的な内容を理解する。生活設計を立てる)	<ul style="list-style-type: none"> 契約と自己責任について理解する 年金, 健康保険, 雇用保険, 介護保険などの社会保障制度を正確に理解する 規制緩和と自己責任について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 金融市場の構造と機能を理解する さまざまな金融機関の社会的な機能を理解する 中央銀行の機能, 金融政策について理解する ネット銀行やネットショッピングについて理解する
成人	(金融・経済<税制, 社会保障制度を含む>や金融サービスの利用方法・リスクの具体的な内容を理解する。生活設計を立てる)	<ul style="list-style-type: none"> 契約と自己責任について理解する 年金, 健康保険, 雇用保険, 介護保険などの社会保障制度を正確に理解する 規制緩和と自己責任について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 金融市場の構造と機能を理解する さまざまな金融機関の社会的な機能を理解する 中央銀行の機能, 金融政策について理解する ネット銀行やネットショッピングについて理解する

金融商品・サービスの内容	生活設計	消費者としての自立
<ul style="list-style-type: none"> 預金の基本的な機能を理解する (実践的指導例: 銀行や郵便局に預金をしてみるよう促す) 預金にいろいろな種類があることを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 計画を立てて消費することを学ぶ (実践的指導例: 欲しいものを短期的にがまんした経験を話し合う) 貯蓄の意義を理解し, 貯蓄の習慣を身に付ける (実践的指導例: 貯金箱にこづかいやお年玉を貯めてみるよう促す) 	<ul style="list-style-type: none"> 要らない物を買ったり買ってもらったりしないようになる 不良品に注意することを学ぶ 生活を取り巻くさまざまなリスクについて学ぶ
<ul style="list-style-type: none"> プリペイドカードの機能と使い方について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 貯蓄の意義を理解し, 貯蓄の習慣を身に付ける (実践的指導例: 比較的長期間こづかいを貯めた経験を話し合う) 年齢相応の額の金銭を管理できるようになる (実践的指導例: 預金も含めて自分で金銭を管理するよう促す) 	<ul style="list-style-type: none"> 見かけに惑わされず自分に必要な物を選んで買えるようになる
<ul style="list-style-type: none"> 主な預金商品の特徴を理解する ATMの基本的な利用方法について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 貯蓄の意義を理解し, 貯蓄の習慣を身に付ける (実践的指導例: 長期的な目標に向けてこづかいを貯めた経験を話し合う) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に必要な物を考えて買えるようになる 消費生活センターの役割を知る
<ul style="list-style-type: none"> 株式と債券について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来について考え, その裏付けとして経済的な面からの生活設計が必要なことを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 誇大広告や悪徳商法を見分け, 被害に遭わずにすむようになる 消費者保護基本法, 消費者の権利や責任を学ぶ 製造物責任法について理解する リスクとリターンの基本的な関係について学ぶ
<ul style="list-style-type: none"> 預金, 株式, 債券, 生命保険, 損害保険の機能を理解する 手形・小切手, クレジットカード, デビットカード, キャッシュカード, ローンカードの機能としくみを理解する ローンのしくみを理解する 外国為替, 外貨建て金融商品の機能とリスクを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定に向けて情報を集め, 意思決定する 職業選択と生活設計を結び付ける 自らのライフプランニングについて考える 	<ul style="list-style-type: none"> 契約を締結する際の留意事項と自己責任について学ぶ 消費者契約法について理解する 消費者として苦情を申し立てる方法を学ぶ クレジットカードやローンを利用する上での留意点を理解する 金融商品におけるリスクとリターンの関係について学ぶ 金融に関する情報収集方法を学ぶ
<ul style="list-style-type: none"> 預金, 株式, 債券, 投資信託, 生命保険, 損害保険などの機能と商品内容を理解する 手形・小切手, クレジットカード, デビットカード, キャッシュカード, ローンカードの機能としくみを理解する ローンのしくみを理解する 外国為替, 外貨建て金融商品の機能とリスクを理解する 預金保険制度とペイオフについて正確に理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 家計における収入と支出を把握し, 家計簿を記帳できるようになる 家計の資産の状況と収支の見通しに基づき, 金融商品・サービスおよび社会保障制度に関する正確な情報を収集し, 合理的な生活設計を立てることができるようになる 必要に応じて生活設計を見直すことができるようになる 自分の子どもに対し, 年齢相応の教育ができるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> 契約を締結する際の留意事項と自己責任について学ぶ 消費者契約法について理解する セーフティネットについて理解する クレジットカードやローンを利用する上での留意点を理解する 金融商品のリスクとリターンについて理解する 金融商品販売法について理解する 消費者として苦情を申し立てる方法を知る 金融に関する情報収集方法を学ぶ

(注) ここでカリキュラムとは, 学校教育法施行規則に定める学習指導要領を指すものではなく, 学習内容について体系的に組み立て, 理解を進めやすいように整理したものを言う。

(出所) 金融広報中央委員会「金融に関する消費者教育の推進に当たっての指針(2002)」(別表8)再掲。